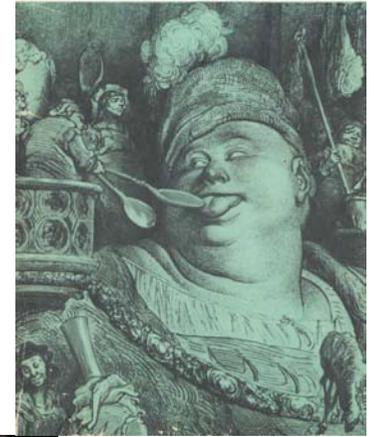




食行動科学

～過食とダイエットの心理～



2009年度前期・人文学部心理学専攻科目



「食べること」の理解を通じて、

人間について考える。

1回目	4/7	Projector 不調
2回目	4/14	Projector 故障
3回目	4/21	Projector 修理完了？
4回目	4/28	Projector 稼働？
休み	5/5	-
5回目	5/12	
6回目	5/19	

1回目 4/7 授業紹介・履修注意

* 生物-個体-文化(ヒト-人-人間)

2回目 4/14 序章

* 環境-行動 (日本の50年)

3回目 4/21 1章 生物的・生理的基礎

* nature or nurture

4回目 4/28 2章 味覚・味・おいしさ

休み 5/5

5回目 5/12 3章 学習と好き嫌い

1回目 4/7 授業紹介・履修注意

* 生物-個体-文化(ヒト-人-人間)

2回目 4/14 序章

* 環境-行動 (日本の50年)

3回目 4/21 1章 生物的・生理的基礎

* nature or nurture

4回目 4/28 1章 生物的・生理的基礎

2章 味覚・味・おいしさ

休み 5/5

5回目 5/12 3章 学習と好き嫌い

Nature or Nurture: ネイチャー, ナアーチャー

Nature → 生得的 → “本能” 的 → 生物的

Nurture → 後天的 → 学習

「氏か育ちか」

*ここでは, 「氏」家系とか「血筋」という意味ではなく, 遺伝子レベル, 進化レベルでの「氏」であることに注意!

食は、**生物的行動**か？

Yes & No

Neonatal infants(新生児)



甘味溶液(sweet solution)
苦味溶液(bitter solution)



Smile, acceptance(受容)



Spit out, reject(拒否)

基本味への生得的好悪

Innate responses to basic tastes



詳しくは、「食べることの心理学」有斐閣, P. 72

See “The psychology of eating”, P. 72

甘味・塩味: sweet, salty

酸味・苦み: sour, bitter

▶ 快の表情 Pleasure

▶ 不快の表情 Unpleasure



チーズは好物?

Cheese, Is your favorite food?

雑食性: omnivorous



Food neophobia

Food neophilia

Omnivorous dilemma

食物新奇性恐怖

食物新奇性嗜好

雑食性動物のジレンマ

詳しくは、「食べることの心理学」有斐閣, P. 63



See “ The psychology of eating”, P. 63

特殊飢餓:

人は生得的に食物（栄養）選択能力をもっている (Davis, 1929)



この実験は**問題が多い**。食物選択能力は学習を抜きに説明できない！
(Rozin, 1976; 今田, 1994)



Fig. 6.—Typical type of meal as served.

特殊飢餓:

人は生得的に食物（栄養）選択能力をもっている (Davis,1929)



この実験は**問題が多い**。食物選択能力は学習を抜きに説明できない！
(Rozin, 1976; 今田,1994)

1. 看護師（養育者）による無意識の「誘導」。。。。

社会的参照(9ヶ月齢あたり)

間主観性

二次の間主観性

2. 「安全」にバイアスがかかっていた。。。。

追試はできない。。。。

食物新奇性嗜好：food neophilia



+



= ?

食物新奇性恐怖：food neophobia
食物新奇性嗜好：food neophilia



生物的な行動特性：biological behavioral tendency

個人差に注目！

: Pay attention to Individual differences.



心理尺度：Psychological scales to measure...

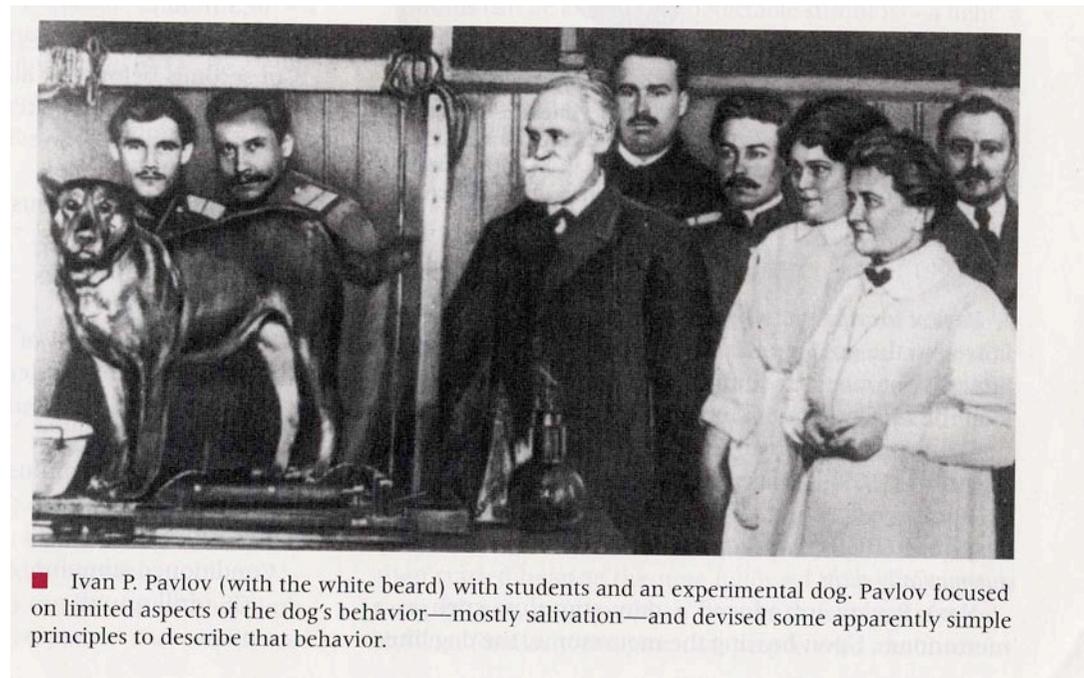
食物新奇性恐怖尺度：Food neophobia scale

(Pliner, 1992; Imada & Yoneyama, 1998)

Pavlov型条件づけ
(古典的条件づけ)

US - UR

CS → CR



■ Ivan P. Pavlov (with the white beard) with students and an experimental dog. Pavlov focused on limited aspects of the dog's behavior—mostly salivation—and devised some apparently simple principles to describe that behavior.

dogはヨダレを流しはじめた. . . 際限もなく

CS → 餌 (食物) がもらえるぞ！

栄養(カロリー) → US

油脂(ニオイと触感) → CS

対呈示



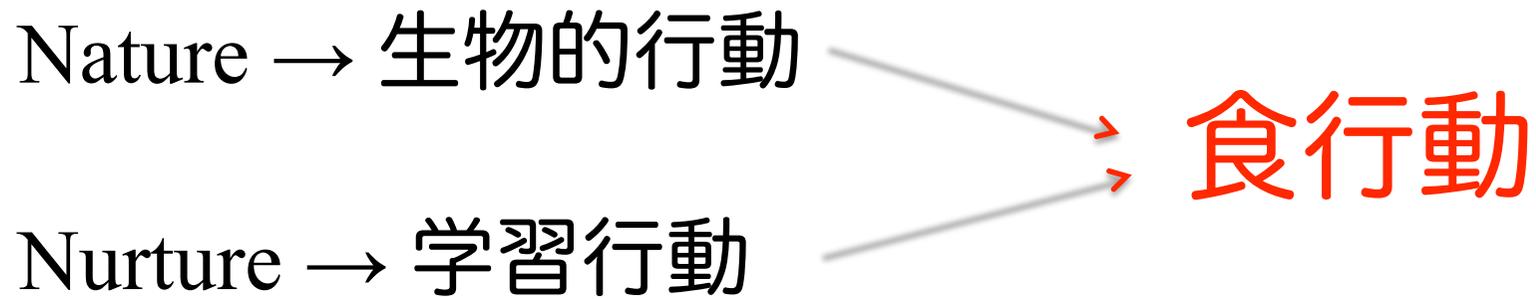
CS → エネルギー（カロリー）がもらえるぞ！

チーズを食べないネズミ
基本味に反応する新生児
“自由に”食べてすくすくと育った赤ちゃん
音によだれを流すイヌ
鶏の唐揚げに対する食欲の個人差（食べものの好き嫌い）
をみてきました。

はたして、食行動は生物的行動なのか、学習行動なのか？
答えは。。。。

Yes & No

Nature or Nurture: ネイチャー, ナアーチャー





むずかしいなあ



我々は、動物であり、同時に、人間なのだ。

第1章 キーワード

P. 31-36

エネルギー, セットポイント, ホメオスタシス, 糖質, タンパク質, 脂質, 微量栄養素, 血糖, 血糖値, 視床下部, 副交感神経, グルコース, インスリン, グルカゴン, 糖尿病, II型糖尿病

P. 36-42

末梢説, キャノン, 糖恒常説, 脂質恒常説, 中枢説, VMH, LH, CCK, コレシストキニン, 体重の設定値説, 体重の安定値説, ピネル, 体重の水漏れ樽モデル



第3回講義(APL.21)おわり